ショップルクリア 成長物語 7

作・松井柚子（イラストも）
監修・武永昭光（ショーアンドテル代表）

休日には若い女性たち、アフターファイブには OLでにぎわう駅直結のファッションビルに出店する「Lucuria」（ルクリア）・そこで働く店長歴3年の瞳。今年2月に前のお店を円満退社した千夏。4月から新入社員として入社した麻紀。ショップルクリア成長物語は、この3人が試行錯誤しながらお店を成長させ、社内で高い評価をされるようになっていく物語である。

8月Ⅱ　壁面も法則に沿う

麻紀がディスプレーの法則の通り、ボディー3体をシンメトリーの構成にして作ったところ、反応は上々だった。立ち止まる人が増え、普せた商品の売れ行きが伸びたのである。

この時のディスプレーはどうだ。向かって左からジャケットの色を「白・ネービー・白」、インナーの色を「ライトブルー・白・ライトブルー」、パンツの色を「ネービー・グレー・ネービー」にし、色合いをシンメトリーにした。

このように麻紀が作ったディスプレーにヒントを得て、千夏は壁面もシンメトリーにしてみてはどうかと思った。ルクリアには幅90㎝間隔の壁面が五つある。パイプでも棚でも変更がきく。

今、一番左のスパンにはバッグ、隣にはカットソー、真ん中の上段にジャケット・下段にスカート、その隣も上段にジャケット・下段にスカート、一番右にはパンツが展開されている。この5アイテムをもう5スパンに展開していくか。

千夏は瞳店長に相談した。

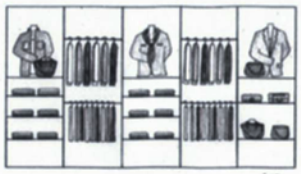
「店長、壁面をシンメトリーに変えてみたいんです。もしうまくいかなかったらすぐに元に戻すので、ちょっと変えてみてもいいですか？」

「いいけど・・・どういう風にするつもり？」

「以前に店長と麻紀が訪れたお店のディスプレーがとても魅力的だと言っていたのを思い出したんです。だから、両端と真ん中のスパンの上部に、新たにディスプレーを設けてみてはどうかと思って」

「なるほどね。じゃあ、任せるわ。とりあえず好きなように やってみて」

シンメトリーですっきり見せる



両端と真ん中のスパンの上部には、上半身ボディーを使ってディスプレーを設け、シンメトリーに配置することにした。そうすることで、少し離れた所にいるお客様にも、ジャケット、カットソー、バッグがあるということをディスプレーによってお知らせできる。

間の二つのスパンには、ジャケットをスリーブアウトでかけることにした。ボディーの下段は棚、間の2スパンはパイプにした。左端の棚にはカットソーを陳列し、隣にはスカートをかけ、真ん中にはパンツ、その隣にはまたスカート、そして右端の棚にはバッグを陳列した。2カ所に振り分けたジャケットとスカートは左右それぞれが同じ数量になるようにした。厳密に言うと、カットソーの棚は3段、バッグの棚は2段だが、ほぼシンメトリーになったと言っていい。

瞳店長は壁面を見て、千夏の成長ぶりに驚いた。見違えるほど良い売り場になったと感じたからだ。

※この物語はフィクションです。実在のショップ、人物とは一切関係ありません。